

【令和7年度版】

農業分野における特定技能外国人受入れの優良事例

有限会社 下村畜産

～特定技能2号人材の指揮下での日常業務管理と、キャリアアップへの見える化の取組～

基本情報

所在地 愛知県大府市

畜産 黒毛和種の繁殖から肥育まで自社牧場での一貫生産、及び食肉加工等 日本国内・海外へ年間約 1,500 頭出荷

おもな飼育 肉用牛 1,190 頭 乳用牛 12 頭(グループ全体で約 4,800 頭)

社員構成(アンケート時) 日本人 8 人、技能実習及び特定技能1号 5 人+特定技能2号 1 人(すべてベトナム)



受入れ機関の特徴的な取組:キャリアアップの仕組みづくり

- ①外国人材の確保については、他産業との競争上賃上げの必要性に迫られている。
- ②どのように賃上げをしていくかを検討する中で、現在、キャリアアップの仕組みを構築中。
- ③その仕組みは、作業内容・所要時間・それが安定的にできるようになった場合の昇給額を記載したもの。

【受入れ機関(西村総務部長)へのインタビュー】

① キャリアアップの取組としての外国人ごとに作業内容や就労時間を記録する 仕組みづくりについて、教えてください。

(背景)以前は、最低賃金での雇用が可能でしたが、今は、他産業との競争上、困難になっています。では、どのように賃金を上げていくかを検討する中で、従業員のキャリアアップの仕組みを作成しているところです。

(現時点までの改善点)まず、誰がどの業務を行うか、について一覧表にして皆が見えるようにしました。このことで、スタッフ同士の作業負担の不公平感がなくなるという副次的な効果もあるようです。さらに、作業の遅れが生じた場合、他のスタッフがそこに回ることもできるようになり、希望者には週休二日が可能となりました。動物相手のこの業界ではあまり例がないことだと思っています。

(作成中のキャリアアップの仕組み)作業内容・所要時間・それが安定的にできるようになった場合、職能・評価による昇給額を記載したものを作成しているところです。これをスタッフ全員に示したいと思っています。また、外国人スタッフ向けには、日本語の要件もこの仕組みに入れ込み、日本語学習意欲を高めることを検討しています。日本人スタッフと外国人スタッフの区別はしておりませんが、日本語だけは、外国人スタッフ向けの学習意欲向上のための取組が必要だと感じています。

② 特定技能2号人材のフォンさんについて聞かせてください。

当時は特定技能制度がなかったため、当社での技能実習の修了後は帰国していました。特定技能制度が始まると聞き、彼女をリクルートするためにベトナムに行き採用しましたが、入国コロナで待機させられました。特定技能2号の試験には、自身で日本語教科書等で勉強し、会社は教科書を印刷する機材等を支援しました。今年の3月(特定技能で入国後3年目)に合格しました。現在、現場の管理職として、日本人スタッフを含む現場スタッフの指揮をとっています。会社がやりたいことを彼女がすべて指示でき、非常に優秀だと思います。

【カオ ティーン フォンさん(特定技能2号)へのインタビュー】

① なぜ日本で働くのですか、日本ではどのくらいの期間を働く予定ですか

→大学を卒業し2年ほど母国で働きました。日本語検定はN2を取得しているので、お金を稼ぐためにも海外で働くのが希望でした。

下村畜産で技能実習を修了し、帰国して4年をベトナムで過ごしたが、当社社長から強い要請があり、特定技能として再入国して働くことを決めました。

当社は日本一の牛肉を生産しており、その仕事に就きたかったです。



フォンさんの写真

② あなたはどんな仕事をやっているのか教えてください

→黒毛和牛の飼育・生産に関わる作業の他、日本語もベトナム語もできるため、従業員への仕事面や生活面でのアドバイスやフォロー等もやっています。動物相手だから、作業の安全衛生にも注意を払っています。

③ 地域の人とは交流ありますか

→地域の自治体等が実施している日本語教室や地域交流のバドミントン・料理教室等のイベントには、積極的に参加して楽しんでいます。

④ 特定技能2号の試験合格へは、どのように勉強しましたか

→ホームページに掲載の農業の特定技能2号に関する教科書で勉強しました。動物を相手にする仕事で教科書だけではわかりづらい部分もあったが、わからないことは自分でスマホで調べ、なんでも理解するよう努力しました。

⑤ 賃金については、満足していますか

→再入国時に、社長と相談して決めました。当社の外国人材への基本は時給制だが、特定技能2号は日本人と区別なく月給制となっており、満足しています。

⑥ 今後の目標や母国での将来はどのように考えていますか

→可能な限り長く働き、母国でレストランをやりたいと考えています。母国に夫と子供もいるので、できれば呼んで一緒に生活したいです。

⑦ 後輩へのアドバイスを

→基本は日本語の勉強です。また日本語とともに、外国人交流会等へも参加し、日本の生活や文化も学んでほしいです。

【「これから来るベトナムの皆さんへのメッセージ」(ベトナム語を意識)】

① 私はフオンと申します。クアンチ省出身です。

日本人はとても厳格ですが、生活のため仕事のために必死に日本語を勉強して、日本の生活に慣れていきました。日本の生活はとても良いです。清潔で、食べ物も安全で衛生的です。人々はとても礼儀正しいです。

② 愛知県で最大規模の下村畜産という会社で働いています。

皆さん「神戸牛」はご存じだと思いますが、「神戸牛」以外にも、日本では同じような品質の非常に有名な品種を飼育しています。日本でしか育てられない牛です。

③ 農業の仕事は皆さんもご存じの通り、とても大変で過酷ですが、努力すれば、どんなことでも乗り越えられます。

仕事のやり方、生活の仕方、そして発展の方法を学ぶためでもあるのです。

日本に来てからは技能実習生となり、その後、特定技能1号ビザに切り替え、現在は特定技能2号を取得しています。長い道のりでしたが、今では日本人と普通に働けるようになりました。

④ つまり、たくさんのチャンスがあるわけです。機会があればぜひ日本に来てください。素晴らしいことがたくさん、皆さんを待っています。